

長寿命化、環境対策も

再生・保全に関する技術

①

建設技術フェア



会場には理工系の学生らも大勢訪れた

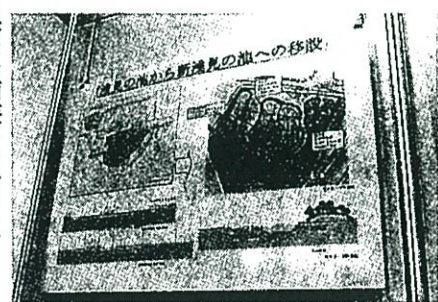
吉岡幸は、住金システム建築(東京都)の建物用途と階数に応じた3タイプのシステムをPR。直接基礎

や杭基礎などタイプに応じた基礎システムを保有し、熟練した型枠工や鉄筋工を必要としないため、短工期・ロ

ーコストを実現した。石黒建設は、未来に向けて自然環境に配慮した施工事例と、工事現場での土石流から身を守る安全対策について紹介。大阪で池の中にホームセンターを建設した工程パネルや、立山砂防の堰堤工事現場に設置している土石流センサーなどを展示した。

プロテックエンジニアリング(新潟県)は、既設落石防護柵補強工法「再強フェンス」を出展。既設柵の支柱を利用して取り付けるだけの簡易施工で、既設柵の撤去を必要とせず、廃材の発生を最小限に抑えた。VEEMAは、様々な井戸の調査と延命技術によるコストダウンの特許工法を紹介。高速旋回するノズルから超高压水を噴射するシステムにより井戸内を洗浄。さびや泥、固形カルシウムなどの附着物を落とし、水質改善や湧出量の増加につながるとした。

ラバファルト(埼玉県)は、傷んだ舗装クラックの維持補修対策として「クラック抑制ラバファルト塗膜工法」を提案。ファイラー入り特殊アスファルトの同製品を舗装クラックに塗布し路面の凹凸をななくす仕組み。打ち換えなしの補修で舗装の延命効果を発揮する。



坂川建設のブースに飾られたパネル。道永寺大野道路建設に伴う浅見の池(永平寺町)の移設工事において、絶滅危惧種のメダカやジュズカケハゼの生息環境を再生、保全した事例を紹介した。

このほか、村中建設と越前大野ものづくり研究会は、コンクリート構造物を当初の設計基準強度まで修復する「パンソウ工法」・新明防水工業は施工効率の高いウレタン塗膜防水材料などをPRし、環境に配慮した材料による社会資本・建築物の長寿命化を提案。坂川建設は、中部縦貫自動車

団体関係では、福井工業大学工学部建築土木工学科五十嵐研究室が、あわら市の「竹田の里将来ビジョン」のプロジェクトの一環で、学生らが製作した「冒険アレーパークツリーハウス・ドーム」の5分の1スケール模型を展示。見学に訪れた高校生たちに建築の楽しさを伝えた。福井県コンクリート診断士会も、コンクリート構造物の診断や維持管理など活動内容をパネルで紹介した。